平成 19 年度　受託調査研究

東北地域におけるスポーツ振興による地域活性化に関する調査（民間企業）＜公開可＞

現在，東北地域においては，少子高齢化や過疎化が進展する中で，様々な問題が現出し，学校での運動部の減少をはじめ次世代層の健全育成に資するスポーツ環境にもその影響が及んでいる。一方，スポーツには人と人とを結びつけ団結させる魅力があり，地域におけるスポーツによる交流と連携は地域コミュニティの再生につながり，地域における諸課題を解決する力になることが期待できる。

以上の観点を踏まえ，本調査では，新潟県を含む東北 7 県における先進事例を取り上げ，さらには各市町村の教育委員会を対象としたアンケート調査結果に基づき，今後少子高齢化が加速する東北地域におけるスポーツ交流による地域活性化の方向性について提示した。

平成２０年４月１１日
財団法人東北開発研究センター

調査報告書『東北地域におけるスポーツ交流と地域活性化』の発行について

財団法人東北開発研究センター（会長：幕田圭一）では平成１９年度、東北電力株式会社からの委託により『東北地域におけるスポーツ交流と地域活性化』をテーマに調査・研究を実施してまいりましたが、このほど調査報告書をとりまとめましたので、概要についてお知らせいたします。

現在、東北地域においては、少子高齢化や過疎化が進展する中で、様々な問題が現出しています。一方スポーツには、人と人を結びつけ、団結させる魅力があり、地域におけるスポーツによる交流と連携は、地域コミュニティの再生に繋がり、地域における諸課題を解決する力になることが期待できます。

こうしたことから、本調査・研究では、新潟県を含む東北７県における先進事例を取り上げ、更に各市町村の教育委員会を対象としたアンケート調査結果を踏まえながら、今後少子高齢化が加速する東北地域におけるスポーツ交流による地域活性化の方向性について提示しております。

当センターでは、本報告書が、今後の東北の地域活性化の一助になればと考えております。

なお、本報告書は、行政他の関係団体等へ配付するほか、当センターならびに関係諸団体が主催する勉強会・セミナー等で活用していくこととしております。

【報告書の概要について】

Ⅰ　タイトル　『東北におけるスポーツ交流と地域活性化』

Ⅱ　調査研究体制

福島大学人文社会学群人間発達文化学類　黒須充教授からアドバイザーとして助言指導を受け、（財）東北開発研究センターにおいて、各種統計、文献調査、アンケート調査、および事例調査（ヒアリング）を実施した。

Ⅲ　報告書の構成

本編

第一章　スポーツ交流と地域活性化

１．東北におけるスポーツ交流と地域活性化

第二章　東北地域におけるスポーツ交流による地域活性化の方向性

１．スポーツを通じた新たな公への地域単位の取組み
２．東北の地域資源を活かしたスポーツ交流の促進
３．次世代層のスポーツ振興と地域再生
４．団塊の世代を活かしたスポーツ交流
５．高齢者を中心とした健康志向、ニュースポーツ交流
６．東アジアとの交流

第三章　東北地域におけるスポーツ交流による地域活性化を進めるためのポイント

１．スポーツ交流の基本となる地域単位の取組みの強化
２．スポーツを通じた多世代交流の活発化
３．地域活性化の手段としてのスポーツの活用

事例編

（１）「カーリングの街のブランド化を目指して」青森商工会議所
（２）「カーリングの街青森のアピールと国内外交流」青森市役所
（３）「商店街を元気に」サマーノルディックスキーまちづくり推進
鹿角市役所、鹿角市教育委員会
（４）「スポーツを活かしながら地域づくりするＮＰＯ」
ＮＰＯ法人フォルダ＜岩手県北上市＞
（５）「学校との連携－地区のスポーツ関係団体がクラブ会員」
しわひめスポーツクラブ＜宮城県栗原市＞
（６）「地域全体が家族」
稲穂ファミリースポーツクラブ＜山形県鶴岡市＞
（７）「スポーツを通じて地域を元気に」
ひのきスポーツクラブ＜福島県南会津町＞
（８）「高齢者の新たなコミュニティと元気づくり」
ＮＰＯ法人エンジョイスポーツクラブ魚沼＜新潟県魚沼市＞

※（４）～（８）は総合型地域スポーツクラブ

資料編

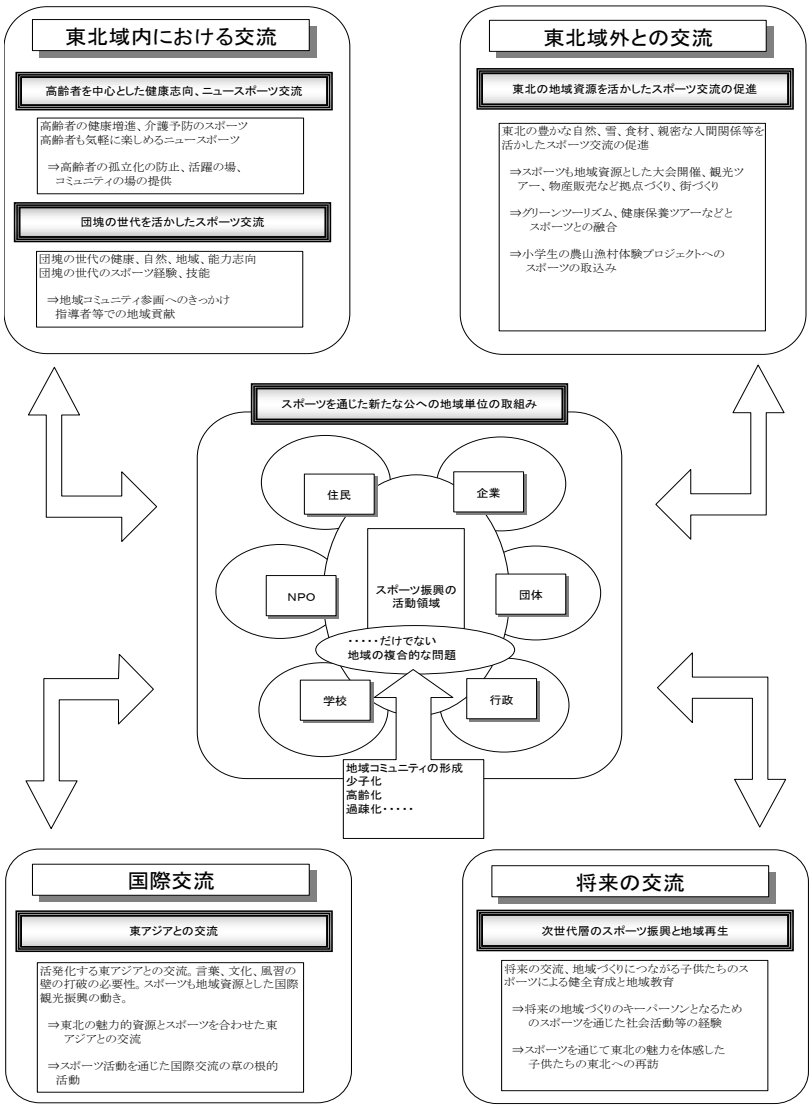
アンケート調査集計結果

※アンケート調査概要

調査対象	青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県、新潟県の各市町村、政令市の教育委員会等
調査内容	スポーツ交流、振興の取組みの現状とその効果や地域活性化に関わる意見などを聞いた。
調査方式	郵送方式
調査期間	平成 19 年 11 月 14 日～平成 19 年 12 月 20 日
回収結果	発送数 268 件、回収数 169 件、回収率 63%

Ⅳ　別添資料　報告書要約

（参考）少子高齢化が進む東北地域のスポーツ交流と地域活性化のイメージ



（本件に関するお問い合せ先）財団法人東北開発研究センター

〒９８０－０８０４　仙台市青葉区大町二丁目１５－３１　大町電力ビル別館

ＴＥＬ０２２（２２２）３３９４　ＦＡＸ０２２（２２２）３３５７

担当：調査研究部　大泉、千葉

以上

（別添資料）報告書要約

第一章　スポーツ交流と地域活性化

１．東北におけるスポーツ交流と地域活性化

スポーツを振興することにより、地域内外の人々が交流し、そこから生まれる様々な効果によって地域が活性化していくことに期待が寄せられている。

スポーツを通じた交流の範囲は、非常に身近な地域コミュニティの単位から国際交流の範囲まで、そして、子供たちにとっては将来に向けた交流も考えられる。本調査では、それらの範囲内で考えられる「東北におけるスポーツ交流による地域活性化の方向性」についての六つの柱を取り上げる。

①スポーツを通じた新たな公への地域単位の取組み
②東北の地域資源を活かしたスポーツ交流の促進
③次世代層のスポーツ振興と地域再生
④団塊の世代を活かしたスポーツ交流
⑤高齢者を中心とした健康志向、ニュースポーツ交流
⑥東アジアとの交流

第二章　東北地域におけるスポーツ交流による地域活性化の方向性

１．スポーツを通じた新たな公への地域単位の取組み

国土審議会にて審議、答申された「国土形成計画（全国計画）（案）」においては、四つの大きな戦略的目標を推進するための横断的視点として、「『新たな公』を基軸とする地域づくり」という新しい取組みについて取り上げられている。

スポーツに関わる「新たな公」を基軸とした地域課題の解決事例として、総合型地域スポーツクラブの取組みがあげられる。現在、全国的に育成されている総合型地域スポーツクラブは、①住民の豊かなスポーツライフの実現化へ向けた地域スポーツ振興上の諸課題と②地域社会の多様な生活課題等を住民自身の自主的・自発的な「参加と協働」によって解決しながら、生涯スポーツの振興と地域コミュニティの創造を図っていくという「住民参加・協働のしくみづくり」に資すると考えられている。事例調査したクラブの中には、スポーツクラブというよりも地域づくり組織と称した方が良いと思われる事例もあり、今後の少子高齢化の進展によって生じる地域としての問題、課題を解決するための一つの主体として期待される。

２．東北の地域資源を活かしたスポーツ交流の促進

スポーツを通じた地域活性化に資する東北特有の地域資源については、自然環境、雪、食材、人口当たりの施設数やスポーツ少年団の数の多さ、人柄などが挙げられよう。他にも顕在化していない地域資源を発掘しながら、これらを活かしたスポーツ交流の促進策を検討することが大切と言える。

アンケート調査では、スポーツ振興による地域活性化を図っていくうえでの東北地域のセールスポイントについては「豊かな自然」が半数以上を占めている。「自然」は東北の大きな「売り」であり、ツーリズムとスポーツを融合した先進事例を普及していくことが必

要である。
　昨年総務省、文部科学省、農林水産省が発表した「子ども農山漁村交流プロジェクト」では、原則 1 週間程度の宿泊体験を実施することとなっているが、より強い結びつきや思い出をつくるためにもスポーツに関わるプログラムの提供が有効であろう。

３．次世代層のスポーツ振興と地域再生

　アンケート調査によると、約 7 割弱の割合で中学校の運動部数は減少傾向にある。事例でも、部活動でのスポーツ選択ができなくて、スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブに参加している子供たちの姿が浮き彫りになっている。そして、中学校の運動部での外部指導者の活用は 7 割を超えている状況にある。ヒアリングでも、学校が総合型地域スポーツクラブと連携し、学校、地域、親の会が三位一体となった地域連携による部活動を推進している事例がみられた。今後ますます、子供たちの健全育成における学校教育以外の地域の役割は高まっていくものと言える。
　また、スポーツを通じて、子供たちが地域に誇りを感じたり、さらには地域再生のための活動に参加する事例もみられた。スポーツを通じて地域に関わることにより、地域社会の一員としての自覚を持つことに繋がっていくとともに、将来の地域社会の中心的な役割を担う人材へと成長していくことが期待される。

４．団塊の世代を活かしたスポーツ交流

　団塊の世代に、スポーツを通じて地域コミュニティに参加してもらうかを検討することが今後の地域の課題となる。特に、地域コミュニティと疎遠であった一般企業人のリタイヤ者がこれから団塊の世代を中心に増えていく中で、地域とのつながりをどのようにして図っていくかが課題となっていく。都市部からの移住者が、すぐに地域コミュニティに入っていくことは難しいと言える。その際、地域コミュニティへの参加の手段としてスポーツが有効となる。スポーツの気軽さがコミュニティに抵抗なく入るきっかけになるうえ、地域スポーツを新たな生活に取込んだり、スポーツ経験のある人は、地域スポーツでの指導者になることも考えられる。

５．高齢者を中心とした健康志向、ニュースポーツ交流

　本格的な高齢社会となっている現在、医療費の増大は避けられない状況となる。要介護に認定されていた高齢者が、筋肉トレーニング教室への参加により要介護が外れ元気になったという事例がみられた。このような予防運動はもっと早い時期に実施すべきとも言われ、積極的なスポーツの導入が効果的である。
　また、地区ブロックを越えた横のつながりができて、自然発生的な高齢者のコミュニティが生まれることや、スポーツプログラム以外のトレッキング、温泉ツアーなどで交友関係が広がるなど今後危惧される高齢者の孤立化の防止として、総合型地域スポーツクラブが大きな役割を果たしている事例もみられた。
　高齢者＝ゲートボールというイメージがあるが、実際、高齢者はいろいろなスポーツに取組みたいと思っている。現在、様々なニュースポーツが普及しているが、これらは、体力的に負担の少ない、気軽に楽しめるものが多い。ニュースポーツは、高齢者にとって取組みやすいものであり、子供も含めて多世代で楽しめるものである。そこには高齢者だけでない、多世代の新しい交流、コミュニティが生まれる可能性が十分あり、ひいては多様な世代の力が集まって地域の活力が高まっていくことになる。

６．東アジアとの交流

東北 7 県の空港における出入国者数の推移など、東北地域への東アジアからの交流人口は近年増加傾向である。東アジアからみた東北の観光の魅力としては、自然、温泉、ゴルフ、スキーなどがある。ゴルフ、スキーは、韓国、台湾などでも人気があり来日する人が増えている状況にある。青森市では、公式大会が開催できる専用のカーリング施設が整備され、日本はもとよりアジアにおけるカーリング競技の拠点都市の地位を確立している。

アンケート調査においては、「スポーツを通じた国際交流の実施」については、「今後実施する予定」も含めて「実施している」が 12.7%、「検討中」が 27.9%で、「今後も実施しない」が 59.4%となっている。東北の市町村単位では、まだまだスポーツを通じた国際交流は活発とは言えない。

しかし、国際交流では、言葉、風習の違いなどが最初の壁となるが、今後、産業経済、観光、学術など様々な分野で東アジアとの交流を推進していく時に、その突破口としてスポーツを通じた草の根的な交流が考えられる。スポーツは言葉のいらないコミュニケーションのツールであることから、地域にある国際交流団体等との連携で、スポーツを通じたイベント、ホームステイを実施するような国際交流の積極的な展開が望まれる。

第三章　東北地域におけるスポーツ交流による地域活性化を進めるためのポイント

六つの方向性の柱を推進させるためのポイントを以下の三つに整理する。

１．スポーツ交流の基本となる地域単位の取組みの強化

「スポーツを通じた新たな公への地域単位の取組み」は、東北地域内外における交流、国際交流、子供たちの将来の交流の基本となる取組みであるとともに、それぞれの地域活性化の方向性に影響を及ぼすものである。この取組みを強化することが、今後の東北地域の地域活性化に繋がっていくものと考えられる。

（１）スポーツを活かした地域住民が主体となって参加できる「場づくり」と「仕組みづくり」の構築

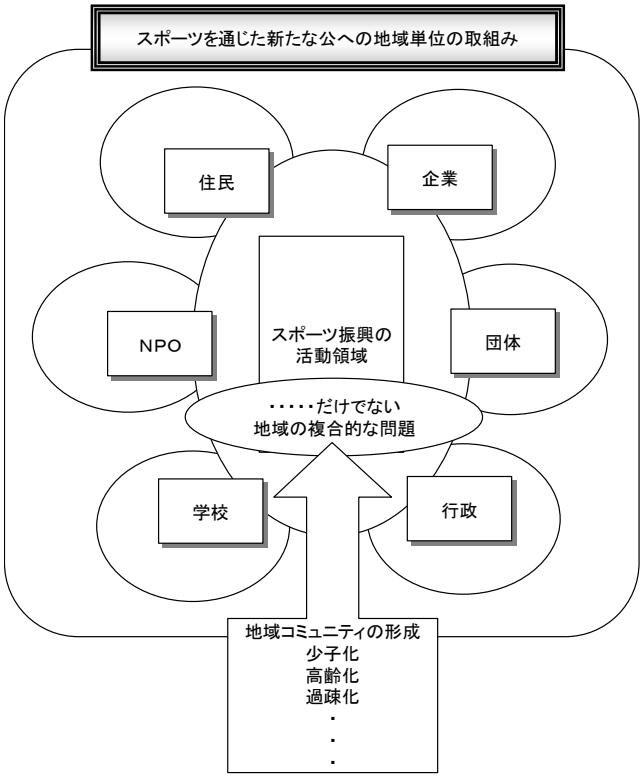
「スポーツクラブ」でもありかつ「地域づくり組織」というようなスポーツ振興を担う組織が、今後の少子高齢化の進展によって東北の地域が抱える様々な問題、課題に対応していく際の中心的な役割を担う「主体」として期待される。

このような組織が、その役割を効果的にかつ着実に果たしていくためには、そこに参加する住民同士のつながりを強めていくことが最も重要である。これを実現させるためには、スポーツという万人に共通する媒体を軸にして、住民が主体的に参加することができる「場づくり」、「仕組みづくり」が重要となる。たとえば、住民が積極的に参加できる場所、居心地の良い場所、楽しいイベントが行われる場所をつくり、それによって、地域住民が気軽に参加しやすい雰囲気づくりにつとめることが必要である。また、手あげ方式的な参加者の主体性が尊重される運営方式の仕組みを気軽に取り入れていく必要がある。

（２）地域単位の取組みに参画する人材育成

スポーツを通じた新たな公の担い手となる人は、今後重要となる高齢者向けのスポーツプログラムや多世代向けのプログラムなどに精通し、日々進歩するスポーツ分野の知識を習得しなければならないだろう。しかし、地域単位の取組みを強化するためには、スポー

ツに関わる専門知識を有するということだけでは不十分である。人と人をなごませ、結びつけることができるようなコミュニケーション能力、また、新たな公の担い手となる各セクターを互いに連携させるプロデューサー的な能力を有することも必要となる。このような能力を有する人材を育成していくシステムを構築していくことが重要である。



２．スポーツを通じた多世代交流の活性化

「次世代層のスポーツ振興と地域再生」、「団塊の世代を活かしたスポーツ交流」、「高齢者を中心とした健康志向、ニュースポーツ交流」、という三つの方向性の柱を推進するために共通しているのは、多世代の交流を活性化させることである。それぞれの世代の持つ力、知識、活力が交流することで大きな力が生まれていく。

そのためには、子供から高齢者まで幅広い年代で楽しめる生涯スポーツの拡大、拡充が重要となる。

また、一般的には高齢者には無理だと考えられる筋肉トレーニングについても、適切な方法、管理の下で実施することで、大きな効果を生んでいるように、運動のしかたについても多世代交流の視点でその実施方法の見直しを検討すべきである。

さらに、多世代交流で実施できるスポーツイベント、教室などの企画も重要となる。

３．地域活性化の手段としてのスポーツの活用

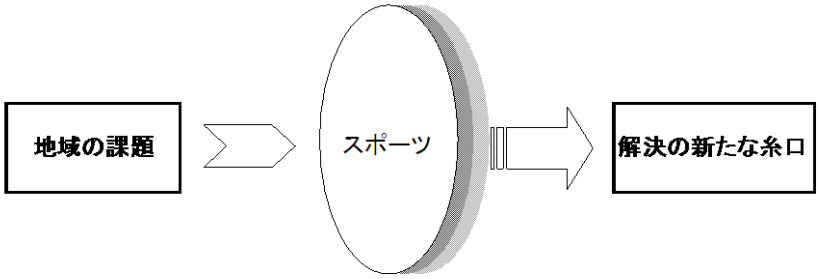
スポーツは、その分かりやすさ、爽快感、達成感、そして、チームワークなどの特色を有しており、人、物、アイディアを結びつける媒体、接着剤、ある時は潤滑剤になっている。これらスポーツの特性を踏まえて、スポーツをいわゆる「競技」と捉えるだけでなく、地域交流、地域活性化のツールとして活用すべきである。

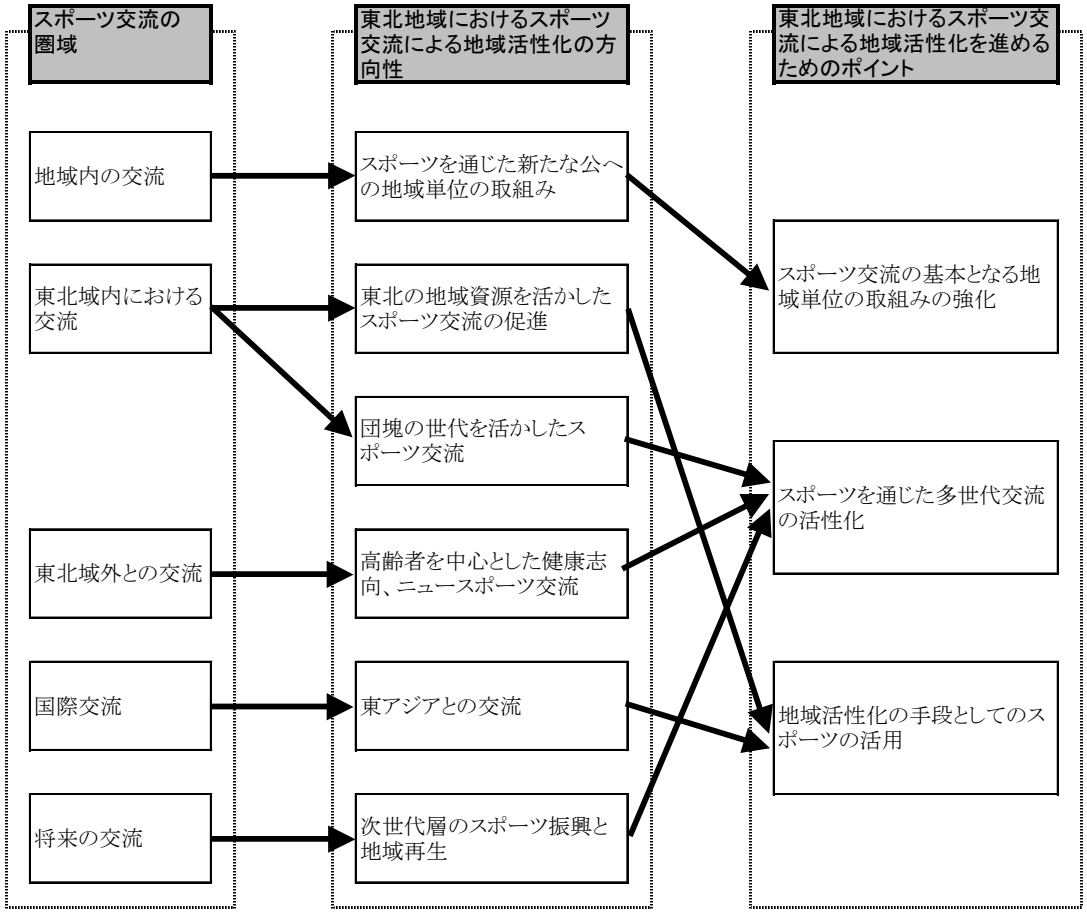
今後様々な課題が現出した場合、スポーツを切り口として課題解決の糸口を常に考えて行くような発想の転換が必要となる。そこから新たな地域づくりの考え方が生まれ、例え

ば青森商工会議所の事例にもあるように、スポーツ資源を活用した経済活性化に向けて新しい地場産品、新しい観光商品などの開発が期待される。

「東北の地域資源を活かしたスポーツ交流の促進」、「東アジアとの交流」の二つの方向性の柱を推進するためには、このような発想の転換が必要となる。

スポーツを切り口にした地域課題解決のイメージ



スポーツを切り口とした課題解決の新しい方向性に向けて、地域住民や行政、企業など新たな公の担い手が主体となって、多世代の交流を実現しながら、東北の豊かな地域資源を活用して、解決の施策を実行していくことが求められる。

東北地域におけるスポーツ交流による地域活性化を進めるための骨格